

長野県知事杯争奪 プロ・アマドリームトーナメント大会規定

本トーナメントは、該当年度の公認野球規則及び下記のトーナメント大会規定を適用する。

1. 本トーナメントに参加できる選手は所属団体の規定を満たすものとする。
2. チームは単独チームとする
3. 選手、監督、コーチ（役員、スコアラー、トレーナーは除く）は同一のユニフォームを着用すること。背番号は所属の団体の規定に従う。
4. 傷害処置については本トーナメント中の負傷又は疾病に対して応急処置は施すがそれ以上に関して主催者は責を負わない

トーナメント規則

1. 次試合チームのマネージャーは前試合5回終了後にメンバー表を本部（審判員室）に提出する。
2. ベンチと先攻後攻についてはトーナメント表の左側チームが1塁側とし後攻とする
3. 各試合は9回戦で行い5回終了をもって正式試合とする。試合成立後不慮の事態により試合続行が不可能となった場合に限り両チームが完了した均等回の総得点で勝敗を決め同点の場合は抽選を行う。試合成立前に上記の理由により試合続行が不可能になった場合はサスペンデッドゲームとし翌日中断した状況で再開する。
4. 各試合（決勝戦を除く）7回以降7点差の場合はコールドゲームとする。
5. 各試合9回終了時点で同点の場合は延長10回よりタイブレーク方式を実施する（勝敗が決するまで行う）
6. 監督またはコーチが投手のもとへ行くことに関して、規則8.06を適用する。
7. 監督またはコーチが1試合（9イニング）に投手のもとへ行ける回数を3回までとする（投手を交代させた場合は回数には数えない）3回投手のもとへ行った後4回目以降に行けばそのときの投手は自動的に試合から退かなければならない。スピードアップの観点から、監督またはコーチが捕手を呼びよせる行為も同様とする。延長回に入った場合には規則8.06の規定を適用する
8. イニングの途中で投手を交代させる際に監督またはコーチが投手のもとへ行き、新しい投手が準備投球を始めた後もそのまま留まっていた場合には1回に数える。また、イニングの初めから投手を交代させる場合においても、監督またはコーチがマウンドへ行った場合1回に数える。
9. 監督またはコーチが4回目に投手のもとへ行くときや1イニングに2回目に投手のもとへ行くときは、監督は投手のもとへ行く前に球審に投手の交代を告げなければならない。
10. ダブルスイッチ（投手交代と同時に野手も交代させて、打撃順を入れ替える）の場合、監督はファウルラインを超える前に複数の交代と入れ替える打撃順を球審に通告しなければならない。監督またはコーチがファウルラインを超えてしまえばその後にダブルスイッチすることはできない（3.06【原注】）
11. 監督またはコーチが投手のもとに行った場合は審判員がタイムをかけてから45秒以内に終了する。
12. 内野手（捕手を含む）が投手のもとへ行ける回数を、1イニングにつき1回1人だけとする。監督またはコーチが投手のもとに行ったときも1人の内野手だけ（この場合は捕手を含まない）が投手のもとへ行くことが許され、それは内野手が投手のもとへ行った回数に数えられる。なお、投手交代により新しく出てきた投手が準備投球を終えた後、捕手が投手のもとへ行っても捕手が投手のもとへ行った回数には数えない。
13. 1試合につき攻撃側の話し合いを3回まで認める。攻撃側の話し合いは監督が打者、走者、打者席に向かって次打者またはコーチと話し合うためにタイムをとって試合が遅れる場合にカウントされる。なお、延長回に入った場合は、それ以前の回数に関係なく1回の話し合いが認められる。ただし攻撃側の責めに帰せないタイム中（例えば、守備側が投手のもとに集まっているとき、選手が負傷したとき、選手の交代のときなど）

に話し合いを持っても試合を遅延させない限り回数には数えない。

14. 投手の投球練習は（救援投手を含む）は初回に限り、7球以内（1分を限度）とする。次回からは5球以内とする。
15. 投手は捕手その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内に、走者がいる場合は20秒以内に投球しなければならない。違反した場合は走者がいない場合ただちに球審がボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし同一投手が2度繰り返したら3度目からはその都度ボールを宣告する。牽制球を送球したときは20秒の計時をリセットする。
16. 本トーナメントはDH制を採用する。

【タイブレーク方式について】

本トーナメントでは申し合わせ等の定めにより次の「延長回に関わる特別規則（タイブレーク）」を適用することができる。

- (1) 本トーナメント規則により定められたイニング（9回）の攻撃を完了し両チームの得点が同点の場合は10回より無死走者1、2塁の状態から行うこととする。
- (2) 前回正規に打撃を完了した打者の次の打順のものとする。
- (3) この場合の走者は前項による打者の前の打順のものが1塁走者、1塁走者の前の打順のものが2塁走者となる。
- (4) この場合の代打及び代走は認められる。
- (5) イニング数について
 - ・イニング制限は設けず勝敗が決するまで行う。

トーナメント特別規定・補足

1. グラウンドインから試合終了まで、役員、監督、コーチ、部長、副部長、スコアラー、トレーナー、登録選手27人以外はベンチに入ることができない。
2. グラウンドインしたチームは本部の指示のもとグラウンドルールに従い速やかに試合前練習を行うこと。
3. 試合前のシートノックは7分以内とし先攻チームが先に行う。但し、試合時間の都合で行わない場合もある。
4. コーチーズボックスには、監督、コーチ、選手のいずれかが入ること。その際必ずヘルメットを着用すること。
5. 規則4.06に規定のとおり、監督、コーチ、選手、スコアラー、マネージャー等、いずれも相手選手を惑わすような行動はとってはならない。
6. 手袋、リストバンド、リストガード、エルボーガード、フットガードの使用を認める。打者が走者になった場合これらの着脱のためだけのタイムは認めない。ただし、打者走者が二塁ベースに到着した際に限りこれらの着脱のためのタイムを認める（速やかにベースコーチが取りに行くこと）
7. その他、グラウンドルールについては各連盟規定を適用する。

雨天時のスケジュール

1. 雨天時は翌日に順延する。
2. 1日目又は2日目が中止の場合、予備日に決勝を行う。

以上